

令和4年度 第2回学校運営協議会評価報告書

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

学校長 牧田 礼次郎

評価日	令和5年2月17日（金）
評価・提言	学校の所見・改善策
1 重点目標の達成状況について ○職業人としての基礎的な力の育成 ・進路先で、建設業が開拓されたと聞き、非常に大きな一歩だと感じた。建設業の場でも、DX（デジタルトランスフォーメーション）により、スキルがなくても安全に働く領域が広がっていくことが考えられる。引き続き就労先として検討していただきたい。 ○地域社会とつながりながら生きる力の育成 ・学校のいろいろな地域との関わりは、今後も継続してつながることを願っている。また、地域とのつながりが生徒にプラスになればと思う。 ○働きやすい職場、一人一人が成長できる組織づくり ・教職を目指す若者を増やすためにも、現在取組んでいる時間外業務の削減を引き続き進めてほしい。 2 目標達成のための取組結果について ・就職後の定着率に関わり、離職した場合のフォローはどうか。大切では。 ・「生徒の生活する力を育む」とあったが、最近の事件（スマホを通じた闇バイト問題等）に関わる報道等を見ていると、こうした事件に巻き込まれないようなカリキュラム、防犯講習も実施していただきたい。	○引き続き新規開拓に取り組んでいく。 ○学校と地域がつながる取組について新型コロナウイルス対応を見据えながら広げていきたい。 ○業務改善、時間外業務の縮減等、取組をより進めたい。 ○本校には就労定着支援員が配置されており、卒業後3年間はフォローしていく。また、障害者就業・生活支援センター等の機関とも協力してフォローしている。 ○1年後の定着率9割を目指しており達成している。引き続き取り組んでいく。 ○情報・モラル等に関わる学習、研修に取り組んでいるところ。引き続き取り組んでいく。

3 具体目標の達成状況について ・本年度の取組の自己評価はメリハリがついてよかったが、項目ごとの難易度の差は感じる。進路など、学校だけでは目標が達成できないこともあると思う。先生方も自信をもってほしい。 4 目標達成のために取組んだ具体方策について ・地域のスーパーの撤退等、地域の高齢者の方は不安を抱いている。地域の方の声を聞き、誰か大きな企業（移動販売業等）を興してくれないかと願っている。そうすれば、障がい者の就労確保、地域の方の暮らしを守ることにもつながる。移動先周辺の特別支援学校が販売等に来れば、生徒と地域の方の交流にもつながると思う。 ・進路に関わることなど、生徒・保護者の気持ちを受け止めながら、実態に即した対応を進めてほしい。 ・多くの小中学生等に見学に来てもらえるよう、カフェ、販売などで、割引券なども考えてみてはどうか。 5 その他 ・子どもたちの卒後の生活を考えると、いろいろな場面で楽しみを感じられる環境、孤立しない工夫、そういうことを社会的に考えることが大切である。 ・来年度の入学生30名という状況を踏まえ、本校の魅力の情報発信について、より一層の充実を期待する。 ・「協働性を高める」ことは、就労後にとっても必要になる力なので、他者と協働して問題を解くのは良い取組。ペアやチームを変えながらすると、さらに深まると思う。	○教員自身の取組の評価は厳しくなる傾向にあり、結果がすぐに表れにくいものもあるが、引き続き目標達成に向けて取組んでいく。 ○地域のスーパーの撤退は学校としても驚いている。新しい動きがあれば、その中で本校としてできることを考えていきたい。 ○それぞれの具体的な状況を適切に踏まえ、丁寧にコミュニケーションを取りながら対応する。 ○いろいろなアイデア・助言等について検討していきたい。 ○「学校説明会に来た人に情報を届ける」という発想から「学校説明会に来てほしい人に情報を届ける」という発想に切り替える。その上で各種取組を見直していく。 ○授業改善を着実に進めるとともに、その成果を積極的に情報発信していく。
--	--